

顕彰状

福原美和氏は1944年東京都大田区に生まれ、小学2年生でスケートを始めた。日本の女子フィギュアスケートの先駆者である稲田悦子氏に師事し、全日本フィギュアスケート選手権では1961年の第30回大会で初めての優勝を果たした。早稲田大学第二文学部社会学専修に入学後、在学中の活躍もめざましく、以降第34回まで5連覇、計6回の優勝に輝いた。1962年の世界選手権では9位、1963年から1965年まで3年連続6位となり、日本人女性初の入賞を果たした。

1960年スコーバレー五輪（米国）、1964年インスブルック五輪（オーストリア）の2大会に女子シングルで出場。インスブルック五輪では日本人女子選手初の冬季オリンピック5位入賞、フィギュアでは男女合わせて初のオリンピック入賞であり、日本の冬季五輪史上トップクラスの偉業である。また、1964年および1966年の冬季ユニバーシアードにて、2大会連続優勝を達成している。

インスブルック五輪後はドイツに渡り、現地のプロ養成所に所属。プロとしてのスケートを学びながら、週末にアイスショーに出演する日々を送った。ヨーロッパでの活動後は、アメリカで1930年代から続く伝統的アイスショー「ホリデー・オン・アイス」より、プリンシパル（主演スケーター）として招聘され、米国内・アジア・ヨーロッパ各地のツアーに出演し、Miwa FUKUHARAの名を世界中に知らしめた。

1978年、日本人による初のアイスショー「VIVA! ICE WORLD」（プリンスホテル後援）の創立が計画された際には、これまでの経歴と舞台制作でトップクラスの知見を持つ福原氏に白羽の矢が立った。福原氏は自ら出演する傍ら、海外で培った「魅せるエンターテインメント」のノウハウを大いに発揮し、アイスショーとしての演出・衣装・滑り方などの指南役として活躍すると共に、日本におけるフィギュアスケートの普及に貢献した。

氏は指導者としても手腕を発揮し、1988年カルガリー五輪（カナダ）出場の八木沼純子氏や1994年リレハンメル五輪（ノルウェー）出場の及川史弘氏等、数多くの全日本大会出場選手を育成した。

本学においては、1996年に早稲田大学スケート部フィギュア部門監督に就任してから現在に至るまで、村主章枝氏、荒川静香氏、井上怜奈氏をはじめ、世界トップレベルの選手を支え、育てており、福原氏の指導を仰ぐために早稲田大学スケート部に入部するフィギュアスケーターは後を絶たない。また早稲田大学稲門体育会常任副委員長としても永年にわたり体育各部の活動支援を続け、現役選手や校友を牽引している。

2015年には日本スケート連盟創立85周年記念式典にて、日本スケート連盟から功労賞を受賞しており、本学のみならず日本のフィギュアスケート界に残してきた足跡は大なるものがある。

ここに早稲田大学は、日本フィギュアスケート界と早稲田大学に対する長年にわたる多大な功績と献身が特に顕著である福原美和氏を、早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、その栄誉を永く讃えるものである。

2022年4月1日

早稲田大学